

2020年度 第4回 東大本番レベル模試 国語採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。
- C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

(一) 8点

(模範解答例)

A ○1点

「私」という語は、

B ①○1点 B ②○1点

誰かが言って 初めてその個性の内容が確定するが、

C ①○1点 C ②○1点 X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点

言われた途端に 普遍的に置き換え可能となつて、

D ○1点 Y 〈総合〓まとめること〉○1点

個と普遍が同時に成立すること。(8点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、話題の条件Aを、条件B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する

〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上そろっ

ていれば、この構造の骨組みがほぼ成立しているとみなして1点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Bの要素+Cの要素 ○1点

1

・Yは、条件B、Cを、条件Dに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは条件B、Cどちらかの要素が少なくとも一つあつて、条件Dもあれば、この構造の骨組みがほぼ成立しているとみなして1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 〈Bの要素またはCの要素が少なくとも一つ以上〉+D ○1点

◎ 採点のポイント

採点ポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、C内の要素間においても、原則的に部分採点可能。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(2点満点)

A 『私』という語は、「(1点)

※ 傍線部を説明するための、話題提示の条件。

○ 『私』という言葉は、『私』は「などでも可。

× 『私』の成分が入っていないなければ×0点。

B 「誰かが言って初めてその個性の内容が確定するが、」(2点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件。

- ① 「誰かが言って」の要素に1点。
- 「誰かに言われて」「誰かによって言われて」などでも可。
 × 「誰かが言う」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ② 「初めてその個性の内容が確定するが、」の要素に1点。
- 『私』の内容が確定することになるが、「初めて『私』という語が有意味になるが、」などでも可。
 × 「個性性（性）『私』」の内容の確定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
 ○ 「私」のニュアンスはAで入っていても可。
- C 「言われた途端に普遍的に置き換え可能となって、」(2点)
- ※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。
- ① 「言われた途端に」の要素に1点。
- 「言われた瞬間に」「言われるとすぐに」などでも可。
 × 「言われた途端」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ② 「普遍的に置き換え可能となって、」の要素に1点。
- 「普遍的な置き換え可能性が発生し、「無限に置き換え可能なものとなって、」などでも可。
 × 「普遍的に置き換え可能」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
 ※ 「普遍的」に相当するニュアンスが必要。
- D 「個と普遍が同時に成立すること。」「(1点)
- ※ B、Cをまとめて結論づける条件。
- 「個と普遍が共在していること。」「個と普遍が並立していること。」などでも可。
 × 「個と普遍の共在」の成分が入っていないければ×0点。
 × 「個と無限」としている場合は不可。

(模範解答例)

A ○1点

「私」という語は、

B ①○1点

B ②○1点

B ③○1点

発言の瞬間に

無数の「私」と

変換可能となるが、

C ①○1点

C ②○1点

C ③○1点

その可能性は抽象的ではなく、

置き換え不可能な個体的なものに即して

開かれるから。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点 (8点)

【構造点】

・ Xは、傍線部の理由説明をすべく、話題の条件Aを、条件B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明する〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上そろってれば、この構造の骨組みがほぼ成立しているとみなして1点加点。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Bの要素+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士で、また条件B、C内の要素間においても原則的に部分採点可能である。(7点満点)

3

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り1点加点する。(1点)

A 『私』という語は、(1点)

※ 傍線部を説明するための、話題提示の条件。

○ 『私』という言葉は、『私』は「などでも可。

× 『私』の成分が入っていないければ×0点。

× 「私」の成分が入っていても、「可能性」のみに言及している場合(〓Bの要素が一つも無い場合)不可

B 「発言の瞬間に無数の「私」と変換可能となるが、」(3点)

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく一方の条件。

① 「発言の瞬間に」の要素に1点。

○ 「言った途端に」「言われるや否や」などでも可。

× 「発言の瞬間」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「無数の「私」と」の要素に1点。

○ 「無数の『他の私』と」「無限の他の視点へ」などでも可。

× 「無数の『私』」ニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「変換可能となるが、」の要素に1点。

○ 「置き換え可能となるが、」「交換可能となるが」などでも可。

× 「変換可能」のニュアンスの成分が入ってなければ×0点。

C 「その可能性は抽象的ではなく、置き換え不可能な個体的なものに即して開かれるから。」(3点)

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「その可能性は抽象的ではなく、」の要素に1点。

○ 「変換可能性は具体的に、」その置き換え可能性は抽象的ではありえ、ず」などでも可。

× 「置き換え可能性(変換可能性)の抽象性の否定」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「置き換え不可能な個体的なものに即して」の要素に1点。

○ 「置換不可能な個体的なものに即して」「比類のない個体的なものを通して」などでも可。

× 「置き換え不可能な個体的なもの」ニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

※置き換え不可能」の要素と「個体的」の要素がどちらもあつて初めて加点。

③ 「開かれるから。」の要素に1点。

○ 「開示されるから。」「現れるから。」などでも可。

× 「開かれる」のニュアンスの成分が入ってなければ×0点。

(模範解答例)

A ○1点

子供が

B ○1点

自己中心性を感じさせる固有名で

B ② ○1点

自分を呼ぶのを脱し、

C ① ○1点

C ② ○1点

C ③ ○1点

「私」という語を使って、

置き換え可能な成員の 平等性・対等性を含む

C ④ ○1点

X へ分析Ⅱ分けること ○1点

社会性へ参入すること。

Y へ分析Ⅱ分けること ○1点 (9点)

【構造点】

・ Xは、条件C内部を、C ①、と C ② + C ③ + C ④ の「因果関係」をなす二部分に「分析Ⅱ分けること」する構造への評価である。ここでは、C ①の要素と、C ②、C ③、C ④の少なくとも一つ以上の要素がそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X へ分析Ⅱ分けること C ① + C ②、C ③、C ④の少なくとも一つ以上 ○1点

・ Yは、傍線部を説明すべく、〈主体〉の条件Aを、〈antP ~ butC〉の構文を構成する、あるいは〈因果関係〉を構成するとも言える〈矛盾〉しない二条件B、Cに「分析Ⅱ分けること」する構造への評価である——① 〈antP ~ butC〉の構文は、例えば「男じゃないよ、女だよ」のように「ant」(否定)の成分が入ることによって、「男じゃない」≠「女」となって、「矛盾」しない二条件に「分析Ⅱ分けること」する構造を形成することになる。② 〈因果関係〉を構成する〈因〉と〈果〉は、同じ内容とはいえないから「対比Ⅱ比べること」の成分が若干入り込むが、「因」は必ず「果」を導くことから強い「類似Ⅱ似ていること」が働くことになる。そのため「矛盾」が入り込む余地はなく、つまり「矛盾」しない〈因・果〉の二条件に「分析Ⅱ分けること」する構造を形成する。ここではB、Cの要素がそれぞれ一つ以上入っていれば、この構造の骨組みがほぼ成立しているとみなして1点加点。

Y へ分析Ⅱ分けること Bの要素 + Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士、また条件B、C内の要素間においても原則的に部分採点可能である。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。(2点満点)

A 「子供が」(1点)

※ 傍線部を説明するための、〈主体〉の条件。

× 「子供」の成分が入っていないければ×0点。

B 「自己中心性を感じさせる固有名で自分を呼ぶのを脱し、」(2点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明する〈notP〉または〈因〉の条件。

- ① 「自己中心性を感じさせる固有名で」の要素に1点。
- 「幼さを感じさせる固有名で」「自己中心的なニュアンスを伝える固有名で」などでも可。
- × 「自己中心性を感じさせる固有名」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
点。 ※ただ「固有名」とだけ書かれている場合加点なし。
- ② 「自分を呼ぶのを脱し、」の要素に1点。
- 「自らを指すのを止め、」「自己を表示することから抜けだし、」などでも可。
- × 「自分を呼ぶことの否定」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- C 『私』という語を使って、置き換え可能な成員の平等性・対等性を含む社会性へ参入すること。(4点)
- ※ 傍線部を説明すべく、Aを説明する〈but〉または〈果〉の条件。
- ① 『私』という語を使って、」の要素に1点。
- 『私』という言葉によって、』『私』の使用によって」などでも可。
- × 『私』のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- ② 「置き換え可能な成員の」の要素に1点。
- 「交換可能な成員の」「置き換え可能性としての成員の」などでも可。
- × 「置き換え可能な成員」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
0点。「成員」という語はなくても可。
- ③ 「平等性・対等性を含む」の要素に1点。
- 「平等性を包含する」「対等性を含んだ」などでも可。
- × 「平等性ないしは対等性」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- ④ 「社会性へ参入すること。」の要素に1点。
- 「社会性に参加すること。」「社会性を身につけること。」などでも可。
- × 「社会性への参入」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

自分がされたらどう思うかと 説いて聞かせることへ導くことになるが、

B①○1点

B②○1点

それは自分の快を基準にして 行為の善し悪しを測ることへではなく、

X〈分析Ⅱ分けること〉○1点

C①○1点

C②○1点

C③○1点

C④○1点

自分と他者の置き換え可能性を

想像させ、

個としての立場は違うが、

共通に担うべ

C⑤○1点

Y〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉○1点

き 「倫理」へと参入させねばならないから。

Z〈分析Ⅱ分けること〉○1点(12点)〈120字〉

【構造点】

・Xは、条件B内部を、B①、B②の〈因果関係〉を構成する二要素に〈分析Ⅱ分けること〉する構造への評価である。B①、B②がそろっていれば、この構造は成立しているとして1点加算。

X〈分析Ⅱ分けること〉 B①+B② ○1点

・Yは、条件C内部で、〈C①+C②③〉を、C④と〈C④+C⑤⑥〉の〈矛盾〉する二部分に引き裂いて説明する、〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは〈矛盾〉する二部分の要素、つまりC③と〈C④、C⑤の少なくとも一つ〉があれば、この構造の骨組みはほぼ成立しているとみなして1点加算。

Y〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉 C③+〈C④、C⑤の少なくとも一つ〉 ○1点

・Zは、傍線部の理由説明をすべく、条件Aを、(notP→butQ)の構文を構成する、〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析Ⅱ分けること〉する構造への評価である。ここではB、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みはほぼ成立しているとみなして1点加算。

Z〈分析Ⅱ分けること〉 Bの要素+Cの要素 ○1点

◎ 採点ポイント

※ A、B、Cは条件同士、また各条件内の要素間においても原則的に部分採点可能である。(9点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、先に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(3点満点)

A 「自分がされたらどう思うかと説いて聞かせることへ導くことになるが、」(2点)

※ 傍線部の理由説明をするための話題ないしは導入の条件。

① 「自分がされたらどう思うかと」の要素に1点。

○ 『自分がされたらどう思う?』と「自分がされる立場ならどう思うかと」などでも可。

× 「自分がされたらどう思うか」の成分が入っていないければ×0点。

- ② 「説いて聞かせることへ導くことになるが、」の要素に1点。
- 「説き聞かせることへ導くが、」説論することになるが、」などでも可。
 - × 「説き聞かせることへ導入」のニュアンスの成分が入ってなければ×0点。
 - 「考えさせる」等でも可。

B 「それは自分の快を基準にして行為の善し悪しを測ることへではなく、」(2点)

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明する〈notP〉の条件。

- ① 「それは自分の快を基準にして」の要素に1点。
- 「それは快感原則に従って」「自分の快／不快を基準にして」などでも可。
 - × 「自分の快を基準」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。
- ② 「行為の善し悪しを測ることへではなく、」の要素に1点。
- 「行為の価値を測ることではなく、」「行為の善悪を測るのではなく、」などでも可。
 - × 「行為の善悪を測ることの否定」の成分が入っていなければ×0点。

- B①のような状態から離脱するニュアンスを示す表現があれば可。

C 「自分と他者の置き換え可能性を想像させ、個としての立場は違うが、共通に担うべき」倫理」へと参入させねばならないから。」(5点)

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明する〈butQ〉の条件。

- ① 「自分と他者の置き換え可能性を」の要素に1点。
- 「自他の入れ替え可能性を」「自分と他人の置換可能性を」などでも可。
 - × 「自他の置き換え可能性」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。
- ② 「個と普遍が同時に存在している」等でも可。
- ③ 「想像させ、」の要素に1点。
- 「イメージさせ、」「思い浮かべさせて、」などでも可。
 - × 「想像させる」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。
- ④ 「個としての立場は違うが、」の要素に1点。
- 「個々人としては別人格としても」「個人としては別の観点を持つとしても」「などでも可。
 - × 「個人の立場では違う」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。
- ⑤ 「共通に担うべき」の要素に1点。
- 「共に遵守すべき」「普遍の次元にある」などでも可。 ○ 「社会的」等の表現があれば可。
 - 「普遍的」「普遍性」も可。
 - × 「共通に担う」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。
- ⑥ 「倫理」へと参入させねばならないから。」の要素に1点。
- 『倫理』へと導かなければならないから。』『倫理』へ参加させねばならないから。』などでも可。
 - × 『倫理』へ参入させる」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

※ 「倫理」の成分が必要。

★別解

A 3点

他人にしてはいけないことを自分がされた場合を考えさせる中で、

B 2点

子供が、自己中心的な考えから、

C 2点

D 1点

自分と他人はそれぞれが個であると同時に置き換え可能な存在で相互に対等であることに

思い当たり、

E 2点

F 2点

倫理性・社会性を身につけ 成長する可能性があるから。

A 「他人にはいけないことを自分がされた場合を考えさせる中で、」(3点)

① 「他人にはいけないことを自分がされた場合を」の要素に2点。

○ 「自分がされたらどう思う?」と聞いて「自分がされる立場ならどう思うかと」などでも可。

② 「考えさせる中で、」の要素に1点。

○ 「説き聞かせることとで、」などでも可。

B 「自己中心的な考え方から、」(2点)

○ 「自己中心的な物事の判断の仕方」「自分の快を基準にした考え方」などでも可。

C 「自分と他人はそれぞれが個であると同時に置き換え可能な存在で相互に対等であることに」(2点)

① 「自分と他人はそれぞれが個であると同時に置き換え可能な存在で」の要素に1点。

○ 「主体相互の対等な置き換えができる」「置き換えが可能な存在で」などでも可。

② 「相互に対等であることに」の要素に1点。

○ 「他人と自分は対等であること」「平等性・対等性に」などでも可。

D 「思い当たり、」(1点)

○ 「想像が及び、」などでも可。

E 「倫理性・社会性を身につけ」(2点)

○ 「倫理を身につけ」「倫理性を身につけ」「社会性を身につけ」でも可。

F 「成長する可能性があるから。」(2点)

○ 「子供をく成長させたいから。」「く大人になることを期待するから。」などでも可。

(五) 各1点(合計3点)

a 素朴

b 暗黙

c 要

※文科30点・理科20点

(一) 文科ア・理科ア 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

※基本的に、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔傍線部〕

A1 あいぎやう、 B1 いみじくC1 にほひかをりて、

〔解答例〕

A1 愛らしさが、 B1 たいそう C1 魅力的に漂って、

〔ポイント〕

A【1点】あいぎやう、 ↓ 愛らしさが、

※「かわいらしさが」でもよいとする。

※「愛嬌・愛敬・あいきよう」などは×。

※「が・は」などの主格を示す助詞がない場合は×。

B【1点】いみじく ↓ たいそう

※「とても・非常に」など、程度が基だしいことを示す表現であればよい。

※連用形(連用修飾)になっっていれば「すばりしく」「でもよしとする」。

C【1点】にほひかをりて、 ↓ 魅力的に漂って、

※「魅力的に」「美しく」の意があればよしとする。「美しく香って・美しく照り映えて」などでもよい。

※「美しい」の意がない「香って・匂って」などは×。

(一) 文科イ・理科イ 傍線部を現代語訳せよ。

【3点】

※基本的に、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

ただし、条件が書かれている場合は、それに従ってください。

〔傍線部〕

A1 わがかたざまに、B1 なつかしくC1 なまめきたることなれ

〔解答例〕

A1 わが国風で、B1 心ひかれC1 優美なことである

〔ポイント〕

A【1点】わがかたざまに、 ↓ わが国風で、

※「わが国風」は「日本風・日本的」などでもよい。

※「で」は「に」でもよい。比況(たとえ)の意の「**よ**うに・**よ**うで」は×。

B【1点】なつかしく ↓ 心ひかれ

※「慕わしく」でもよい。※「親しみが感じられる」でもよい。

※「なつかしい」は×。

C【1点】なまめきたることなれ ↓ 優美なことである

※「優美」は「優雅・上品」でもよい。また「美しい・若々しい・しっとりしている・落ち着いている・色っぽい・つややかだ」などでもよしとする。

※「なことである」は「だ・である」でもよい。

(一) 文科力・理工 傍線部を現代語訳せよ。

【3点】

※基本的に、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

【傍線部】

A1 言はぬにはあらざりけりと、 B1 をかしく C1 思さる、

【解答例】

A1 和歌を詠まないわけではないのだなあと、 B1 興味深く C1 お思いになる。

【ポイント】

A【1点】言はぬにはあらざりけりと、 ↓ 和歌を詠まないわけではないのだなあと、

※「詠む・詠ずる・吟ずる」などがあれば「和歌を」はなくてもよい。ただし「和歌」以外のものが書かれている場合は×。

※「詠まないのではないと・詠まないのではなかったと」の意があればよい。詠嘆（〜なあ・〜ことよ）の有無は不問。

※「女も・中国でも」などの有無は不問。

B【1点】をかしく ↓ 興味深く

※「おもしろく」でもよい。「趣深く」でもよいとする。

C【1点】思さる、 ↓ お思いになる。

※自発（〜される）の意がない「思われなさる・思いなさる」でもよいとする。尊敬（お〜になる・〜なさる）がない場合は×。

文科(二)・**文科のみ** 傍線部「…」とあるが、中納言はどのようなことを知りたがっているのか、具体的に説明せよ。 【5点】

〔傍線部〕 知らまほしき

〔解答例〕 **A2** 中国の女性は**B3**和歌を詠むことができないのだろうか、ということ。

〔ポイント〕

A【2点】 中国の女性は

※**Bが0点の場合**は得点できない。(ただし、誤字等で0点になっている場合は除く)

※「女性」は「女は・女房は・女官は」でもよい。

※「中国の・唐土の」がない場合は**【1点】**。

B【3点】 和歌を詠むことができないのだろうか、ということ。

※「和歌を詠めないのか」の意があればよい。

※「和歌を」が明らかでない「詠めない・吟ずることができない」などは**【1点】**。

文科(三)・理科(二) 和歌「…」に示されているのはどのようなことか、説明せよ。【5点】

※基本的に、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与える」としてします。

ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔傍線部〕 ふるさとを恋ふる心も忘るるはこの花見につる夕べなりけり

〔解答例〕 **A3**花のように美しい女性たちを見て、**B2**望郷の思いも忘れてしまったということ。

〔ポイント〕

※「望郷の思いも忘れてしまうほどに、女性たちが花のように美しいという」と。「のようにAとBが逆になっ

A【3点】花のように美しい女性たちを見て、

※「花のように」がない「美しい女性たちを見て」、「美しい」がない「花のような女性たちを見て」は**【2点】**。

※「花のように」も「美しい」もない「女性たちを見て」は**【1点】**。

※「女性たち」は「女性・女房(たち)・女官(たち)」でもよい。

※右の意がなく「后・皇后・人」がある場合は、全体**【3～1点】**(からマイナス**【1点】**とする。

B【2点】望郷の思いも忘れてしまったということ。

※「望郷の思い」は「故郷を恋しく思う気持ち」などでもよく、また、「故郷・故国・帰国」でもよしとする。

文科(四)・文科のみ 傍線部「・・・」をわかりやすく現代語訳せよ。

【5点】

【傍線部】

A1 枯れで B1 さは C1 この花 D1 やがて E1 にほはなむ

【解答例】

B1 それでは、 C1 この花は、 A1 枯れずに、 D1 そのまま E1 美しく咲いてほしい

【ポイント】

A【1点】枯れで ↓ 枯れずに、

※「枯れないで・かれることなく」でもよい。

B【1点】さは ↓ それでは、

※「それなら・それならば・では・そうならば」でもよい。

C【1点】この花 ↓ この花は、

※AもEもO点の場合は得点できない。(ただし、誤字等でO点になっている場合は除く)

※「この花」がAやEの主語であることがわかればよい。

D【1点】やがて ↓ そのまま

※「すぐに・そのうち」「などは×。

E【1点】にほはなむ ↓ 美しく咲いてほしい

※「美しく咲く」は「美しく照り映える」などでもよい。「美しい」の意がない「香る・匂う」などでもよいとする。

※右の意と「〜してほしい」の意の両方ができていて【1点】。

文科(五)・理科(三) 后は、中納言に対してどのような印象を持っているのか、わかりやすく説明せよ。【6点】

〔傍線部〕 なし。

〔解答例〕

A3 全てに素晴らしく優れていて、

B3 帰国して会えなくなるのは寂しい。

〔ポイント〕

A 【3点】全てに素晴らしく優れている、

※「素晴らしい」が【1点】、「優れている」が【1点】。

右の二つ以上ができている場合、それが「全て」に渡っていると説明されていれば、さきさき【1点】。

※「素晴らしい」は「立派だ・魅力的だ・心引かれる」「めでたし」の訳(などでもよい)。

※「優れている」は「優秀だ・秀でている・勝っている」「すぐれたり」の訳(などでもよい)。

※「たいそう・とても」などの有無は不問。

B 【3点】帰国して会えなくなるのは寂しい。

※「帰国して」の意がない「会えなくなるのは寂しい」は【2点】。

「会えなくなる」の意がない「帰国するのは寂しい」は【2点】。

※「寂しい」は「悲しい・切ない・つらい」などでもよい。

2020年 最終1月 東大本番レベル模試 第三問(漢文) 採点基準

(合計点 文科30点、理科20点)

(一)

a 離散してしまった 2点

※「離れ離れになっ(てしまっ)た」、「散り散りになっ(てしまっ)た」

「ばらばらになっ(てしまっ)た」、「あちこちに散らばっ(てしまっ)た」など○(2点)。

※「四方に別れ(て行っ)た」、「東西に散って行っ(た)」、「どこに行っ(た)かわからない」などは△(1点)。

※「東と西に別れた」「東や西に向かった」などは×(0点)。

c (1点)

道理は 同じである 2点

※「理」の置き換え…(1点)

・「道理」「理屈」「条理」「ことわり」など○(1点)。

・「どちらでも」のようにしていても可とする。

※「亦斉し」の意味…(1点)

・「亦」は「また」であるが、訳出の有無は不問とする。

・「斉し」は、「同じである」「同じ(こと)だ」が○(1点)。

「ひとしい」「等しい」のままは×(マイナス1点)とする。

e 二人とも 2点

※「母も私(自分)も」「母と私の兩人ともに」「両者(両方)とも」「どちらも」など○(2点)。

※「二度も」などは×(0点)とする。

(一)

a 2点

b 1点

c 4点

d 点

久々の故郷で、田畑でも耕して 貧乏暮らしをするのも悪くない という心情。(7点)

a 直前部「宿鳥は本の枝を恋ふ」及び「帰り来って」の要素：2点

※故郷に戻ってきた(戻っている)ことに触れてあればよい。

※「久々の故郷で」「久々に故郷に戻り」「なつかしい故郷で」「故郷の土地(家)で」「荒廃した故郷でも」など○(2点)。

※これから「故郷に戻り」のようになっているものは×(マイナス2点)。

b 直後の二句「方に春独り鋤を荷ひ、日暮れて復た畦に灌ぐ」の要素：1点

※田畑を耕すような生活に触れてあればよい。

※「田畑でも耕して」「一農夫として」「田園生活を送り」など○(1点)。

※「のどかに(暮らして)」などでも○(1点)。

c 傍線部「安くんぞ許せん且く窮棲するを」の内容：4点

※直訳は、「どうして否としようか、しばらく貧乏暮らしをするのを」

○(4点)。
※「貧乏暮らしをするのも悪くない」「貧乏暮らしするのによしとしよう」「貧乏暮らしに甘んじよう」など

※「貧乏暮らしを楽しもう」「貧乏暮らしをしよう」「貧乏暮らしをためらわない」などは△(マイナス1点)。

※「〜というあきらめ(の気持ち)」「〜、故郷を見捨てられない(気持ち)」のように間違いが加わっているものはマイナス2点とする。

d 文末の「〜という心情(気持ち)」の有無は不問。

(三)

a 2点	b 1点	c 2点	d 2点	e
長く病気だった母を、	五年もの間	見捨てていたことが	悔やまれる	ということ。(7点)

a 「長病の母を」の要素…2点

※ 「長く病気だった母を」「長く患っていた母を」「長患いしていた母を」など○(2点)。

※ 「病気だった母を」「病身の母を」のように「長」の要素がなくても可○(2点)。

※ 「病に苦しんでいた母を」「病に臥していた母を」などのようでも○(2点)。

※ 「母を」のみの場合△1点。

b 「五年」の要素…1点

※ 「五年もの間」「五年間(も)」「五年(も)」「兵役のために五年も」「五年の不在の間に」など○(1点)。

c 「溝谿に委つ」の内容…2点

○ (2点)。
※ 「見捨てていたことが(を)」「放って(お)いたことが(を)」「顧みずに放っていたことが(を)」「など」

※ 「亡くしてしまったことが」「死なせてしまったことが」などでも○(2点)。

※ 「みぞや谷に捨てた」のようなものは×(マイナス2点)。

d 「永く痛む」心情…2点

※ 「悔やまれる」「後悔している」「心を痛めている」「辛い(辛く思っている)」「悪かったと思っている」など○(2点)。

e 文末の「〜ということ」の有無は不問。

(四) 文科のみ

a 3点

b 3点

別れる家族もなく、

再び兵役に駆り出されるような人生が、

c 4点

d

果たして天子の下の民の人生と言えるのか と思う思い。(10点)

a 「無家」の要素…3点

※「別れる家族もなく」「家族もなく」「家族もすべて失って」など○(3点)。

※「家もなく」「故郷もなく」「故郷も離れ」などは×(マイナス3点)。

※「家族」は「身寄り・身内」などでも可。

b 「別れ」の具体的内容…3点

※「再び兵役に駆り出される(とは)」「また徴兵(徴発)される(とは)」など○(3点)。

※「再び」の要素がないものは△(マイナス2点)

「兵役に駆り出されるとは」は1点

※「兵役」の要素がないものは△(マイナス2点)

・「また故郷を離れなければならないのは」や「再び遠くへ行かなければならないのは」などは1点。

※「再び」「兵役」いずれの要素もないものは×(マイナス3点)。

・「故郷と別れなければならないとは」は0点

c 「何を以てか蒸黎と為さん」の要素…4点。

※「どうして天子の下の民と言えようか、いや天子の下の民とは言えない」が直訳。

※「果たして天子の下の民(の人生)と言えるのか」「これでは天子の下の民とは言えないのではないか」「天子の庇護の下の民とは言えない」など○(4点)。

※傍線部冒頭の「人生」を生かす表現でもよい。

※「果たして人間の人生と言えるのか」「人として生まれた者の人生であろうか」「人間として生まれた意味があるのか」などでも○(4点)。

※「〜というやりきれない思い」のように更に更に心情を表す表現が加わっていてもよい。「やりきれなさ」「憤り」など。

d 文末の「〜という思い」の有無は不問。

(一) 4点

(模範解答例)

A○1点

学園紛争時代に内面の危機に直面したが、

B①○1点

B②○1点

渡欧して、たたき上げでシエフの腕を習得し、各国を巡って、

周囲から親しまれ一目置

かれる存在になっていたから。(4点)

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点

【構造点】

・Xは、傍線部の理由を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明してゆく、〈逆説〓矛盾を含むこと〉構造への評価である。
条件Aと、条件Bの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとして1点加算。

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件間において、また条件B内の要素間においても、原則的に部分採点可能である。(3点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(1点)

A 「学園紛争時代に内面の危機に直面したが、」(1点)

※ 傍線部の理由説明をするための一方の条件。

○ 「学園紛争の時代にアイデンティティ・クライシスに直面したが、」 「学園紛争の最中に自我の危機に面したが、」などでも可。○ 「学園紛争の時代」は「大学時代」でも可。

× 「学園紛争時代の内面の危機」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「渡欧して、たたき上げでシエフの腕を習得し、各国を巡って、周囲から親しまれ一目

置かれる存在になっていたから。」(2点)

※ 傍線部の理由説明をするための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「渡欧して、たたき上げでシエフの腕を習得し、各国を巡って、」の要素に1点。

○ 「欧州に渡り、各地を巡りながらシエフの腕を身につけ、」 「欧州を巡ってシエフの腕前を習得し、」
などでも可。○ 「欧州」は「外国」でも可。

× 「欧州をめぐってシエフの腕前を習得」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「周囲から親しまれ一目置かれる存在になっていたから。」の要素に1点。

○ 「周りから親愛感を持たれ尊敬される人間になっていたから。」 「周囲から親しみみをもたれ人の上に立つ存在となっていたから。」などでも可。

× 「周囲からの親しみあるいは尊敬」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

○ 「周囲からの親しみ」と「周囲からの尊敬」のどちらかの要素があれば可。

(二) 5点

(模範解答例)

A ○1点

単純労働者から出発して特殊技能を習得し、

B ○1点

周囲の尊敬を受け、外国の階層生態を眺めることが、

X 〈分析Ⅱ分けること〉 ○1点

C ○1点

鍛えられた生活の知恵や人間を見る目でなされたであろうところ。

Y 〈総合Ⅱまとめること〉 ○1点 (5点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉として説明する構造への評価である。本文中では「not only P but also Q」の構文で提示してある。ここでは、条件A、条件Bのがそろうていれば、この構造が成立しているとして1点加点。

X 〈分析Ⅱ分けること〉 A+B ○1点

・ Yは、条件A、Bを条件Cに〈総合Ⅱまとめること〉する構造への評価である。ここではAもしくはBとCがあれば、この構造の骨組みがほぼできているとみなし1点加点。

Y 〈総合Ⅱまとめること〉 〈A、Bのうち少なくとも一方〉+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件間において原則的に部分採点可能である。(3点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要件を満たしている場合に限り加点する。(2点満点)

A 「単純労働者から出発して特殊技能を習得し、」(1点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

○ 「単純労働者から身を起こして特殊技能を身につけ、「単純労働からはいあがって特殊技能を獲得し、」などでも可。○ 「特殊技能」は「シェフの技能」であることを明記していても可。
× 「単純労働から特殊技能へ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「周囲の尊敬を受け、外国の階層生態を眺めることが、」(1点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉しない他方の条件。

○ 「周囲に敬われ、外国人の諸階層の生態を観察することが、「周りからの尊敬を受け、また外国社会の生態を眺めることが、」などでも可。

× 「周囲の尊敬と外国社会の生態の観察」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「鍛えられた生活の知恵や人間を見る目でなされたであろうところ。」(1点)

※ A、Bを、それらをなした根拠においてまとめてゆく条件。

- 「積み上げられた生活の知恵や人間への観察眼でなされたであろうところ。」「磨き上げられた生活の知恵や人を見切る目でなされたであろうところ。」などでも可。
- × 「鍛えられた生活の知恵や人間を見る目」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- 「鍛えられた」のニュアンスの有無は不問とする。

(三) 5点

(模範解答例)

A ○1点

青年は帰国して日が浅く、一種の「社会的沈黙」の中にあるが、

B ○1点

心中に豊かな想念が渦巻き、時来たらば個人的で多彩なものが流れ出すと、

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

C ○1点 Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

語気から感じたから。(5点)

【構造点】

・ Xは、傍線部の理由を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明して行く、〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここではA、B二条件がそろっていれば、この構造は成立しているとして1点加算。

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A + B ○1点

・ Yは、〈矛盾〉する二条件A、BをCに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、A、Bのうち少なくとも一方とCがあれば、この構造の骨組みがほぼできていると見なして1点加算。

Y 〈総合〓まとめること〉 〈A、Bのうち少なくとも一方〉 + C

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件間において原則的に部分採点可能である。(3点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(2点)

A 「青年は帰国して日が浅く、一種の「社会的沈黙」の中にあるが、」(1点)

※ 傍線部の理由説明をするための一方の条件。

○ 「帰国して間もない青年は、『社会的沈黙』を保っているが、」「青年は帰国したばかりで、『社会的沈黙』を余儀なくされているが、」などでも可。

× 『『社会的沈黙』』のニュアンス成分が入っていないければ×0点。

B 「心中に豊かな想念が渦巻き、時来たらば個人的で多彩なものが流れ出すと、」(1点)

※ 傍線部の理由説明をするための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

○ 「豊かな想念が心で祝典をあげ、やがて個人的で多彩なものが溢れ出すと、」「心が豊かなイメージで満たされ、時が来ればそこから個人的かつ多彩なものがほとばしり出ると、」などでも可。

× 「豊かな想念」あるいは「個人的で多彩なもの『個人的』あるいは『多彩な』の一方があればよしとする」のニュアンス成分が入っていないければ×0点。

C 「語気から感じたから。」(1点)

※ A、Bをまとめる条件。

- 「言葉の気迫から感じたから。」「迫力ある言葉から感じたので。」などでも可。
- × 「語気から感じる」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

(模範解答例)

A ○1点

青年が鍛えた内面で危機を乗り越えたように、

B ○1点

現代日本の危機を、特に若者達が技能や意欲を培うことで乗り越え、世界に親しまれる日

X 〈弁証法Ⅱ創造すること〉 ○1点

本を再建できるという

Y 〈分析Ⅱ分けること〉 ○1点

C ○1点 Z 〈総合Ⅱまとめること〉 ○1点

予感。(6点)

【構造点】

・ Xは、B内部で、「現代日本の危機」「若者達が技能や意欲を培うこと」(による乗り越え)の〈矛盾(衝突)する二契機を止揚して、「世界に親しまれる日本の再建」に至るという、〈弁証法Ⅱ創造すること〉の構造への評価である。ただし、ここでは、「若者達が技能や意欲を培うこと」(による乗り越え)、「世界に親しまれる日本の再建」二契機(成分)があれば、この構造がほぼ出来上がっていると判断し1点加算。

X 〈弁証法Ⅱ創造すること〉 「若者達が技能や意欲を培うこと」(による乗り越え)の成分+「世界に親しまれる日本の再建」の成分 ○1点

・ Yは、傍線部を説明するために〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉する構造への評価である。ここではA、Bがそろっていれば、この構造が成立しているとし1点加算。

Y 〈分析Ⅱ分けること〉 A+B ○1点

・ Zは、A、BをCに〈総合Ⅱまとめること〉する構造への評価である。ここでは、A、Bの内のどちらか一方とCがあればこの構造がほぼ出来上がっているとみなし1点加算。

Y 〈総合Ⅱまとめること〉 〈A、Bのうち少なくとも一方〉+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件間において部分採点可能である。(3点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した要件を満たしている場合に限り加算する。(3満点)

A 「青年が鍛えた内面で危機を乗り越えたように、」(1点)

※ 傍線部の説明をするための一方の条件。

○ 「青年が海外経験によって鍛えた精神で内面の危機を克服していったように、」「青年が海外での厳しい体験によってアイデンティティ・クライシスを乗り越えていったように、」などでも可

× 「青年による」内面の危機の乗り越え」の成分が入っていないければ×0点。

B 「現代日本の危機を、特に若者達が技能や意欲を培うことで乗り越え、世界に親しまれる日本を再建できるという」(1点)

※ 傍線部の説明をするための、〈弁証法Ⅱ創造すること〉をなす、他方の条件。

○ 「現代日本の困難な状況を、若者達が技能や意欲を身に付けることで乗り越え、世界に敬され親しまれる日本を作って行けるといふ」「特に若者たちが技術や意欲を養うことによつて、古くて新しい、世界に敬愛される日本を築けるといふ」などでも可

× 「若者達が技能や意欲を培うこと(で乗り越え)」「世界に親しまれる日本を再建(できる)」「のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

○ 「技能や意欲を培う」を「相違ある考え方や生き方で社会と文科の厚みをつくる」としているものも可。

※ 「若者達」は「未来」という言葉で説明しても可。

C 「予感。」(1点)

※ A、Bをまとめる条件。

○ 「期待。」「希望。」などでも可。

× 「予感」に相当するニュアンスの成分が入っていないければ×0点。